Kitasato 100×50
Pioneer the Next

北里研究所病院だより

つくしんぼ

2016年 春号
vol.175

特集

1. IBDセンター
（炎症性腸疾患先進治療センター）

2. AICS（アミノインデックス）検査
樹状細胞ワクチン療法

新任医師紹介／管理栄養士が教える！つくしんぼレシピ／医局長の紹介
高齢患者さまの医療支援に対する取り組み③
イベントスケジュール／整形外科市民公開講座レポート
退職医師紹介／編集後記

日本のIBD治療の中心を目指して
～IBDセンター（炎症性腸疾患先進治療センター）～

炎症性腸疾患先進治療センター長　日比 紀文

IBDとは炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）のことを言います。難病に指定されていますが、医療の進歩にともない適切な治療を受け炎症を抑えれば健康な人と変わらない生活が送れます。

IBD（炎症性腸疾患）とは？

炎症性腸疾患：IBD（Inflammatory Bowel Disease）は、腸に慢性の炎症が生じる、原因が明らかになっていない疾患で、根本治療がない病気です。炎症を抑えることはできますが、今の医療では完全に治すことはできません。20～30歳代で発症することが多く、進学、就職、結婚、妊娠など人生の大きなイベントが多い時期にこのような慢性の病気になると、QOL（生活の質）が下がってしまい、患者さまの多くがつらい思いをしていました。日本では、潰瘍性大腸炎の患者数は約17万人、クローン病は約4万人、IBD全体としては20万人以上といわれています。もともと日本人には少ない病気でしたが、患者数は増加傾向にあり、生活スタイルの欧米化（主に食事）が影響していると考えられています。

治療は、投薬治療が中心となります。最近はさまざまな薬が開発され、ほぼ完全に近いかたちで炎症が抑えられるようになってきました。現在では入院をするようなことも減り、多くの方は外来に通院して治療を受けられています。

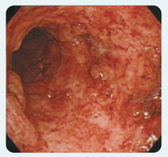
IBDセンターの役割

炎症が抑えられても、今度は炎症が起きないように治療を続けなければならないので、患者さまは長期間通院しなくてはなりません。また、薬の量も症状にあわせて調整していく必要がありますし、炎症が出てしまったら、日々の生活にも困ることがあるでしょう。患者さまそれぞれに合った治療をきめ細やかに見ていくために

IBD（炎症性腸疾患）の種類

潰瘍性大腸炎

大腸に炎症が起きて、潰瘍やびらんができる病気です。
特徴的な症状としては、下血を伴う、または伴わない下痢と腹痛です。



クローン病

主として大腸に炎症をきたす潰瘍性大腸炎と異なり、
口から肛門までどこにでも炎症が起きる病気です。
（小腸、大腸、肛門に多い。）

◎表紙写真：IBDセンター部会メンバー

は、医師だけではなく、看護師、管理栄養士、薬剤師などがそれぞれの専門性をいかして、一丸となって治療にあたらなければいけません。それをより円滑におこなうためにIBDセンターは開設されました。

センターでは、IBDを専門とする医師、看護師、疾患に詳しい管理栄養士、薬剤師だけでなくスムーズに検査や治療を行うために放射線科、腫瘍センターのスタッフ、事務スタッフでチームを組み、迅速な対応ができるよう取り組んでいます。スタッフ全員で必ず週1回のカンファレンスや月1回の運営会議を行い、情報共有をすることで患者さまと向き合える環境を整えています。

カンファレンスの様子

現在も全国から患者さまが来院されますが、これからもキャパシティの許す限り多くの患者さまを治療したいと思っています。当センターの場合は、通常の治療で効かない、あるいは合併症があるなど治療が難しい患者さまが多いので、今後はそういった難しい症状の方が当センターで適切な治療を受け、良くなったら通いやすい最寄りの病院に通院していただけるよう、センターとしての役割をより強化していきたいです。

患者さまへ

IBDは、昔とは違い適切な治療を受ければほとんどの人が普通の生活ができるようになるということ、これを一番に伝えたいです。患者さまや家族の方には、私たちがしっかり説明したり、病気と付き合っていくうちに理解していただけますが、一般の方々にはまだ浸透していません。進学も就職も結婚も妊娠も健康な方と変わらない生活が可能となります。それを正しく知ってもらいたいですね。

PICK UP! IBD専任看護師

当センターの特長の一つとして、日本ではまだ少ないIBDに特化した専任看護師が患者さまのケアにあたっています。

「患者さまが不安に思う治療や薬の補足説明などをしています。もちろん医師がしっかり説明しますが、患者さまは医師の前だと緊張してしまって、聞きもらしてしまうこともあるので…。外来受診した方には相談用のメールアドレスをお知らせしていて、その対応もしています。治療に関することには答えられないですが、医師と相談して返信するようにしています。女性の患者さまなどは男性医師に相談しづらいことなどもありますからね。患者さまとお話することで、病気や治療の不安が少しでも解消できればいいですね。」

IBD専任看護師　**石橋 とよみ**

患者さまが普通の生活を送れるように IBDチームが全力でサポートします!!

日比医師と石橋看護師

Profile

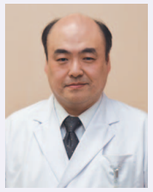
日比 紀文（ひび としふみ）
炎症性腸疾患先進治療センター長
北里大学大学院医療系研究科
炎症性腸疾患臨床研究講座 特任教授

1973年 慶應義塾大学医学部 卒業、
1977年 慶應義塾大学大学院 修了、
1982年 トロント大学研究 助手、1985年 北里研究所病院内科 医長、1989年 慶應義塾大学 助手、2004年 慶應義塾大学教授を経て、2013年より現職、慶應義塾大学医学部 名誉教授。
日本消化器免疫学会（名誉理事長）、日本炎症性腸疾患学会：JSIBD（理事）、アジア炎症性腸疾患機構：AOCC（理事長）他

北里研究所病院で実施している新しい医療

進化し続ける医療技術、日々多くの分野で新しい技術が生まれています。当院でもそれぞれの患者さまにあった医療を提供できるよう、新しい検査や治療を取り入れています。

1 新しいがんの存在リスクを判定できる AICS(アミノインデックス)検査



馬場 彰泰
予防医学センター長／人間ドック科部長 人間ドック健診専門医

これまで人間ドックのオプションでしか受けられなかった「AICS検査」が単独で検査できるようになりました。

AICS(アミノインデックス)検査は、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度バランスの違いを統計的に解析し、がんに罹患しているリスクを評価する検査です。結果は臓器ごとにランクA～Cで判定されます。

これだけを聞くと、あまりこの検査の有用性が伝わりづらいのですが、検査でリスクが高い臓器が分かれば、その臓器をしっかり調べることができ、がんの早期発見に繋がります。また、ランクCと判定されても、運動をする、食事を見直す、禁煙するなど生活習慣を見直すことで、1年後にランクCがランクBやランクAに改善される方も多いです。リスクを減らすことが、がんの予防になるのと考えられます。

この検査を特におすすめしたいのは、会社で最低限の健康診断しか受けていない方や、定年退職後健康診断を受けなくなった方です。この検査で、リスクの高い臓器が分かるので、ピンポイントで治療が必要な臓器を調べることができ、全身を調べる人間ドックなどに比べてコストを低く抑えられます。

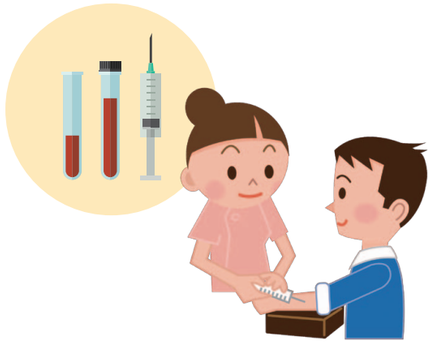
また、持病がある方は、その病気に関わる臓器は、しっかり検査して調べていると思いますが、それ以外の部分はおろそかになりがちなので、リスクを知っておくのも良いと思います。

この検査は多くのクリニックでも実施していますが、高リスクと判定された場合の個別検査は、別の病院に行かなければならない場合が多いです。しかし当院では個別の精密検査もスムーズに受けられるサポート体制を取っていますので、ご興味のある方は安心して検査をお受けください。

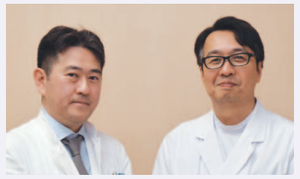
AICS検査の特長

① 採血(5ml)をするだけ(判定結果は紙面での送付) ※完全予約制
② 血液内のアミノ酸の濃度を調べる検査なので、日頃の服薬などに関係なく検査ができる
③ 通常の健康診断や人間ドックで見落とされがちな膵臓がんのリスクを調べることができる(2015年9月から膵臓がんが追加されました)

リスク評価の対象となるがん	《料金:25,000円(税込27,000円)》
男 性(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、膵臓がん
女 性(6種)	子宮・卵巣がん、乳がん、胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん



2 自分の血液が「がん治療」のワクチンになる 樹状細胞ワクチン療法



鈴木 慶一 医師　　竹内 修 博士

鈴木 慶一
外科副部長／日本外科学会 外科専門医・指導医

竹内 修
バイオメディカルラボ室長／研究部部長補佐

新世代のがん免疫治療「樹状細胞ワクチン療法」がはじまりました。

人の体は、異物の侵入に対して、『免疫』という防御システムで異物を排除する機構が備わっています。これを応用し、がんを治療する方法を「免疫療法」といいます。歴史が浅く発展途中の治療法ですが、がんに対する新しい治療法として注目されています。樹状細胞ワクチン療法は、免疫療法のなかでも特に新しい治療法です。

体の中に異物が侵入するとそれを退治しようとするのがリンパ球、そのリンパ球に「異物を攻撃しろ」と指令を出すのが樹状細胞です。この樹状細胞に異物であるがんの目印を覚えさせて、リンパ球にがんを攻撃させ排除するのが、樹状細胞ワクチン療法です。実際には、患者さまの血液から単球といわれる成分を成分採血で採取し、その単球を樹状細胞に変化させ、がんの目印であるがん抗原を用いて刺激し、目印を覚えさえた樹状細胞でワクチンを作ります。そのワクチンを注射で患者さまに戻す治療になります。

この攻撃の目印になるがん抗原は多くの種類があります。最近ではWT1というがん抗原が、比較的多くのがんに現れており、免疫療法に使用するのに適していると評価されています。

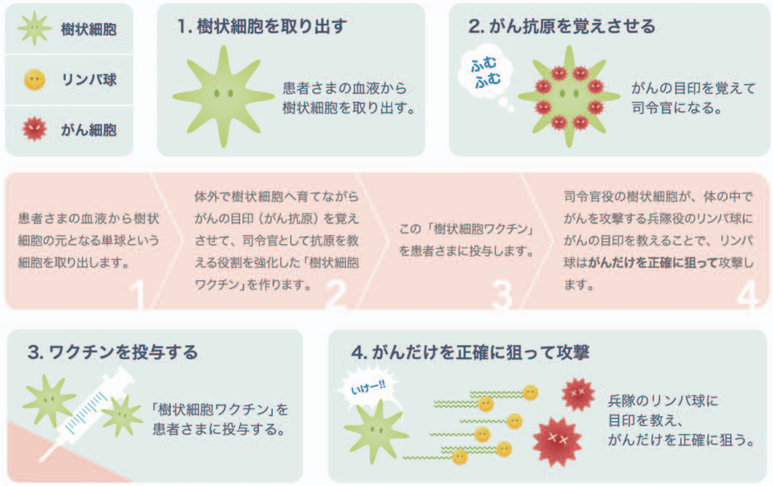
なお、この治療は自由診療となります。私たちはがん治療に対して、標準治療を行うことを大原則にしています。手術、放射線治療、抗がん剤治療といった標準治療をしっかりやって、治療の効果がでない患者さまでご興味のある方には提供していますが、手術ができるのにこの治療を受けたいという方には、標準治療のメリットをご説明しご理解いただいています。

今後は、肝細胞がん切除後の樹状細胞ワクチン療法の臨床研究を開始する予定です。肝細胞がんは再発率が高く、術後に再発予防に有効な抗がん剤や治療が確立されていません。肝細胞がんの手術を受けた患者さまに再発予防として、この治療方法をご提供できる体制にする予定です。ゆくゆくは先進医療として、手術、術後のフォローアップもできることを目指しています。

再発などでこれ以上の治療の手はないと言われてしまう患者さまは多く、この治療に興味がある方、悩んでいる方がいれば、セカンドオピニオン外来を受診ください。

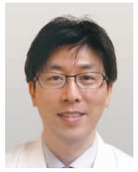
◎完全予約制
TEL:03-5791-6345(予約センター)

樹状細胞ワクチン療法のしくみ



新任医師紹介

平成4月1日に赴任しました常勤医師をご紹介いたします。
これからもどうぞよろしくお願いいたします。



循環器内科
部長
猪又 孝元
（いのまた たかゆき）
存在感ある一枚岩の循環器内科にご期待下さい。

眼科
部長
川北 哲也
（かわきた てつや）
角膜移植医療に長年携わってきました。

麻酔科
部長
上野 哲生
（うえの てつお）
安全で快適な周術期管理を目指して努力していきます。

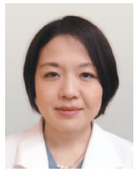
整形外科
医長
日方 智宏
（ひかた ともひろ）
低侵襲な脊椎手術で、患者負担の少ない治療を実践します。

病理診断科
医長
松岡 健太郎
（まつおか けんたろう）
患者さま、臨床医に信頼される病理診断を目指します。

神経内科
医員
内野 彰子
（うちの あきこ）
神経内科を通して地域の方々に貢献できればと思います。

消化器内科
医員
牧田 遊子
（まきた ゆうこ）
精一杯頑張りますので、宜しくお願い致します。

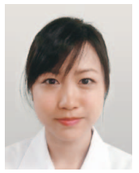
循環器内科
医員
水谷 知泰
（みずたに ともひろ）
当科では、心臓カテーテル検査に力を入れています。



循環器内科
医員
石田 三和
（いしだ みわ）
地域医療に貢献できるよう精進していきたいと思います。

外科
医員
村田 健
（むらた たけし）
患者さまにわかりやすい、丁寧な心療を心がけます。

外科
医員
矢作 雅史
（やはぎ まさし）
いつでもご相談をお待ちしております。



総合内科
後期研修医
西浦 美穂
（にしうら みほ）
よろしくお願いします。

消化器内科
後期研修医
尾﨑 良
（おざき りょう）
精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

消化器内科
後期研修医
岡林 慎二
（おかばやし しんじ）
臨床・研究ともに一生懸命頑張りたいと思います。

呼吸器内科
後期研修医
渡辺 理沙
（わたなべ りさ）
常に患者さまの立場を考え診療いたします。

外科
後期研修医
鈴木 幹人
（すずき みきと）
患者さまにより良い医療を提供できるよう頑張ります。

整形外科
後期研修医
木村 篤史
（きむら あつし）
3月に第3子が産まれました。がんばります。

耳鼻咽喉科
後期研修医
佐山 章子
（さやま あきこ）
いつでもご相談をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

麻酔科
後期研修医
阪井 茉有子
（さかい まゆこ）
こちらで働けることを楽しみにしておりました。

臨床研修管理室
前期研修医
竹村 孔明
（たけむら こうめい）

臨床研修管理室
前期研修医
山本 啓喜
（やまもと ひろき）
何事も自分らしく頑張ります。

臨床研修管理室
前期研修医
吉峰 知宏
（よしみね ともひろ）
向上心を常にもって頑張りたいと思います。

管理栄養士が教える！ つくしんぼレシピ

● 腸炎食メニュー ●

ご飯
鶏肉のパン粉焼き
長芋サラダ
りんごのコンポート

今回は、当院で提供している腸炎食の紹介です。大きな特徴は低脂肪・低繊維にして消化の良い食品と調理法にこだわったお腹にやさしいお食事です。例えば一般食でチキンカツが提供されるときは皮なしの脂身の少ない部位の胸肉を使い、パン粉をつけてオーブンで焼いた「チキンのパン粉焼」として提供します。また副菜で葉物のお浸しが提供される場合は、柔らかい葉の部分だけを茹でて刻んでからお浸しにして消化の良い形態で提供するなど工夫をしています。この日はカロリーの補給と食べやすさを考えリンゴのコンポートを作ってデザートにしました。このように腸炎食は他の食種と出来るだけ同じような献立で脂肪分や繊維（固いもの）を少なくするような工夫をしています。

鶏肉のパン粉焼き

〈作り方〉
1. 鶏肉は火が通りやすいように全体が同じ厚みになるようにする。（厚みのあるところは切り開く）
2. 塩・胡椒してから水溶き小麦粉を表面にまんべんなくつける
3. パン粉を全体につける
4. オーブンシートを引いた天板にのせてオーブンでじっくり焼く（目安として180度で10~15分）
＊表面が焦げやすいのでアルミホイルでカバーするとよい

医局長の紹介

2016年度の医局長に就任しました。

総合内科副部長 田中　淳一

2012年4月北里研究所病院に着任し、4年が経ちました。この度、2016年度の医局長に任命されました。私は2002年より内科全般、2004年より関節リウマチ・膠原病を専門し、内科研修を開始しました。膠原病は、原因不明の疾患でさまざまな臓器に障害をもたらす疾患です。その診断や治療の過程で全身を診るスキルが身につくのではないかと考え、専攻しました。高齢化社会になり、さまざまな臓器に障害をもつ患者さまが増えております。当院ではリウマチ・膠原病外来、総合内科外来を担当しておりますが、全身性疾患である膠原病の診療経験を日々の診療に生かしていきたいと考えております。

北里研究所病院の 高齢患者さまの医療支援に対する取り組み③

当院では、認知症確定診断の専門外来として“もの忘れ外来”があります。近年、もの忘れ外来を受診する患者さまが増えており、「もの忘れを自覚しているが診断を受けた方がいいか？」「もの忘れ外来を受診させたい家族がいるがどのように受診をすすめたらいいか？」など悩まれていらっしゃる方が多いようです。

看護師による“高齢者ケア（もの忘れ）相談外来”では、このようなもの忘れに関するお悩みをはじめ、認知症と診断されたがどのような事に留意すればよいのか、認知症の症状に応じた対応方法など個別のご相談に応じています。お気軽にご相談ください。また、病院Webサイトの各種相談窓口や看護相談にも掲載していますのでご覧ください。

（老人看護専門看護師 和田奈美子）

つくしんぼ第175号　2016年5月1日発行

北里大学北里研究所病院　東京都港区白金5-9-1　TEL（3444）6161　編集発行責任者　武石　年弘

整形外科市民公開講座レポート

2016年3月19日（土）に港区医師会整形外科医会と港区の共催で、「健康寿命を延ばすために2016」をテーマに市民公開講座を開催いたしました。
骨粗鬆症（こつそしょうしょう）や変形性関節症などの予防・治療について、専門家らによる分かりやすい講演が行われました。当日は雨にもかかわらず、昨年を上回る方々にお越しいただき盛会の内に幕を閉じました。
今後も継続して開催する予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております

ロコモ体操の様子

講演会の様子

退職医師紹介

◆3月31日付

芹澤　宏	（総合内科）	平本 尚子	（総合内科）
赤石　誠	（循環器内科）	高橋 路子	（循環器内科）
若林 靖久	（腎臓内分泌代謝内科）	関　大仁	（外科）
蛭川 和也	（外科）	堀内 陽介	（整形外科）
小野 敦子	（整形外科）	村澤　茂	（整形外科）
玉田　裕	（婦人科）	武井 泰彦	（耳鼻咽喉科）
柏木 政憲	（麻酔科）	伊藤 諭子	（麻酔科）
樋口　肇	（化学療法科）	渡辺 憲明	（研究部）
赤坂 茉莉	（前期研修医）	髙橋 純子	（前期研修医）
森川　淳	（前期研修医）	水谷 洋佑	（前期研修医）

◆4月1日付

吉澤 智治	（循環器内科）	川浪　文	（神経内科）

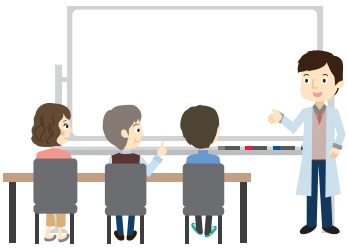
イベントスケジュール

■生活習慣病教室（無料）
開催日　2016年5月14日（土）
時　間　午前10時00分～午前11時30分
場　所　病院3階予防医学センターラウンジ
定　員　30名
申込方法　TEL 03-5791-6146（予防医学センター）

■リビングウィルセミナー（有料）
開催日　2016年5月21日（土）
時　間　午前10時00分～午前12時00分
場　所　病院3階セミナー室
受講料　2,000円（税抜）
定　員　30名
申込方法　TEL 03-5791-6345（予約センター）

■眼瞼下垂セミナー（無料）
開催日　2016年5月25日（水）
時　間　午後2時00分～午後3時30分
場　所　病院3階セミナー室1
定　員　30名
申込方法　TEL 03-5791-6148（美容医学センター）

■ロコモ教室（有料）
開催日　2016年6月13日（月）
時　間　午後2時00分～午後3時30分
場　所　病院3階セミナー室1
受講料　1,000円（税抜）
申込方法　TEL 03-5791-6345（予約センター）



編集後記

リニューアルから4号目の発行となりましたがいかがでしょうか。
以前のつくしんぼは、文字数や専門用語が多かったため、読みやすくしたい、そして読者の皆さまに当院の取り組みや新たな医療技術を分かりやすく伝えたいという思いからリニューアルに着手し、担当者のKさんや印刷業者さまのKさんとなんとか形にすることができました。人事異動により、今号で担当から外れることになりましたが、つくしんぼはまだまだ発展途上ですので、引き続き読者の皆さまからのご意見やアドバイスを頂戴できましたら幸いです。今後ともつくしんぼへのご支援の程宜しくお願いいたします。
（佐藤）